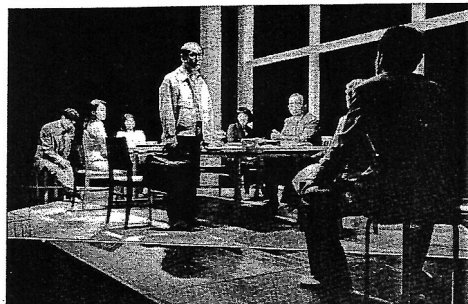
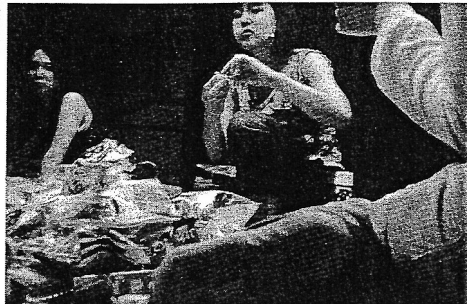
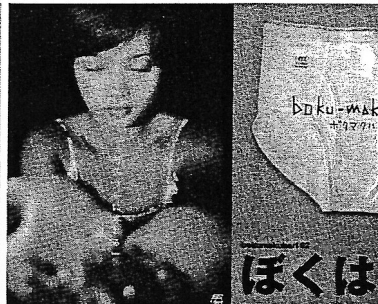




青年団『海よりも長い夜』99年 撮影◆青木司



五反田団『動物大集合』02年



boku-makuhari『阿佐ヶ谷に零れる』01年/『ぼくは普通』02年チラシ

平田オリザの演出法

——前田さん、岩崎さんが作・演出を始めたのは。

前田僕は五反田団を大学2年生の時に始めました。作風は微妙に変化していると思うんですが、ずっと観てる人には全然変わってないと言われます(笑)。

岩崎僕は青年団には役者で入ったんですが、青年団って選抜があるんで役者だけでは安穩としてられなくて、それで興味があったし作・演出もやってみよう。

オリザさんの影響を受けたところはあります。

前田初めて青年団を観たのはアゴラ劇場で公演をやるようになってしばらくしてからなんです。作品的にはオリザさんとは全然質が違うと思

いますが、僕は演出の仕方がずっと手探りで何が演出なのかよくわからなかった。それがオリザさんの稽古を見てももうようようになって、こんな時にはどんな言葉を使ったらいいのとか具体的な演出のやり方がものすごく勉強になってます。今ではそれを盗んでくるくらい。

岩崎オリザさんの作品作りは結構システマチックだと思えます。僕はそこまで頭が回らないしあまり俯瞰して作品を書けないので、作品の作り方は違うと思います。でも僕も演出の仕方や言葉とかの影響はすごくあります。やはり初めて接したプロの演出家がオリザさんだったため。

まだ作品は数少ないですけど「小オリザ」と言われてます、幸か不幸か。

——岩崎さんは五反田団へ出演されてますが。

岩崎前田君はお客さんへのサービスを意識的に考えて演出するんですよ。出来るだけ面白い顔とか動きをお客さんに見せる、それって大事なことで、思ってたし、すごく勉強になりましたね。

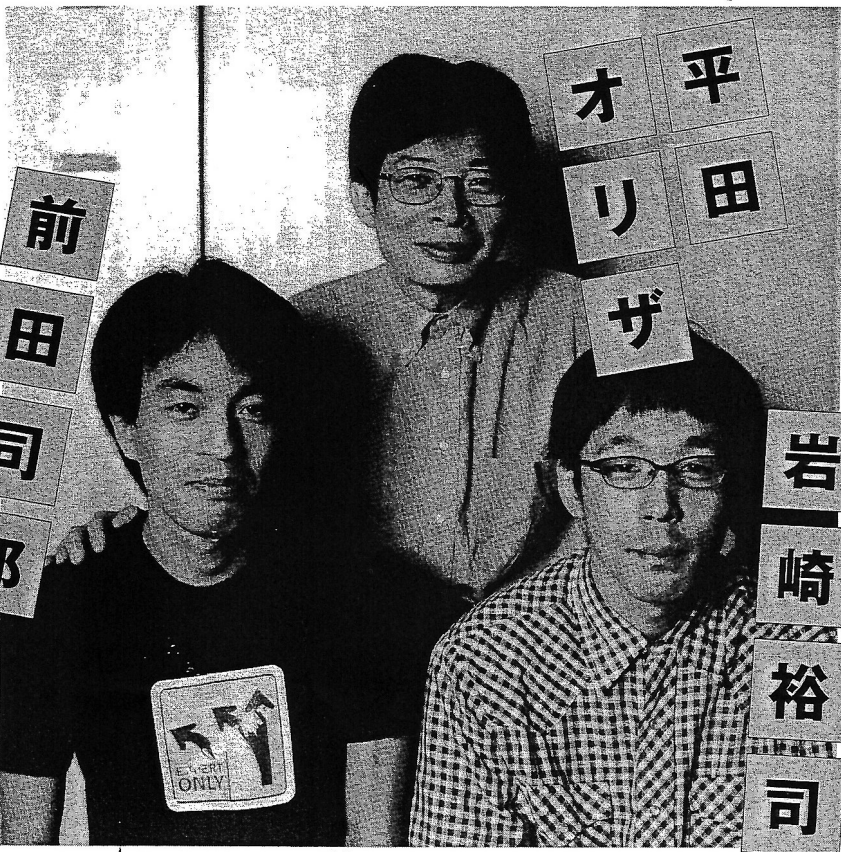
平田この年で観客のことを想像できる客観性をもっているのは、たいしたもんだと思えます。人を思いやらざるをえない、つらい人生があったのかな(笑)。書き手の才能は結構ブレがあるけど、演出家としての才能は精神的に落ち込んでるうちに、だか演出がしつかりしてると

平田(笑)。前田君は、さっき言ったように、そんなに僕の影響はないんです。初めて五反田団を観た時点でもうあんな感じだったんで、そのことにビックリしましたね。岩崎のはまだ観てないからわからない(笑)。僕が旅公演とかに行ってる間にこっそりやるから。早く観たいんだけどね。

岩崎青年団の公演の合間にドンドンやりたいて思ってます(笑)。

お互いをどう見てる？

前田公演は毎回観てるし、気になる存在です。岩崎君のいやな部分やいやらしい部分が出て面白いです。やっぱり最初五反田団を観た時はすごく衝撃的で、ずっとこのまま置いてほしいって言ったのを覚えてます(笑)。



新しい劇場のカタチ

平田今度、五反田団と合併することになりました(笑)。対等合併で話は進んでますけど、この間卓球大会で僕が前田君に勝ったんですよ。それで今は吸収合併という感じで「青年団五反田団」という部に格下げになった。

前田来年は勝たないと(笑)。

平田負けると今度は同好会になっちゃうからね(笑)。すでに今、出演者やスタッフのほとんどが青年団なんだけど、僕は劇場にいくつか劇団があって、俳優がある程度重なっていいと思ってるんです。俳優は劇場に所属して劇場にはちゃんと演出家がいる。それが劇場として健全な形だと思うし、そうしたいです。

——そうすると岩崎さんのboku-makuhari。

岩崎それはまだ難しいかと(笑)。

平田まだ同好会にもなってないから(笑)。

——平田さんが二人に望むものは。

平田青年団若手自主企画というのがあるんですが、それは演出部の演出家が台本から選んで全部独立採算でやるんです。別に僕のスタイルでやらなくていいし、どうやっていい。そういう公演を含めて企画力のある演出家になってもらいたいですね。

前田君もいろいろ考えてるんですよ？

前田まだ考え始めたばかりなんですけど、何人かの作・演出家を集めてオリザさんの作品を一回プロットだけにして、セリフを書き直してやってみたらどうだろうって。オリザさんの作品、何で面白いのかわからないんです(笑)。分解してつくり直してみたらどうして面白いのかかわかんじやないかと思うんです。お客さんもそれって興味あることだと思えます。

漂う空気の関係性

平田オリザ周辺の若手作・演出家の存在が、最近気になっている。アゴラ劇場を中心に活動する五反田団・前田司郎。青年団・岩崎裕司のユニットboku-makuhari。作風は違えども、そこに漂う空気感は青年団の肌触りとよく似ていて、なんだか気になる関係性。そこのところ、どうなんでしょう？

ひらたおとさ ●62年東京都生まれ。83年青年団結成。こぼまアゴラ劇場を拠点に、海外でも精力的な活動を行い、今秋ダブリンを皮切りに一ヶ月以上におよぶ「東京ノート」ワールドツアーを敢行した。桜美林大学総合文化学専任助教授として、新時代の演劇人育成にも力を注いでいる。次回予定 ◆青年団「東京ノート」11/17～25 ◎東京都現代美術館
まえだしろう ●77年東京都生まれ。97年、大学在学中に五反田団に結成。98年頃からこぼまアゴラ劇場を中心に公演を続ける。極端に排除された段ボールだけの舞台セットや手書きのチラシ、脱力した不思議な劇空間が話題を呼んでいる。アゴラ劇場のスタッフとしても活動しており、「五反田団」の今後の展開が気になる。次回予定 ◆五反田団「ながくは息」03/2/19～24 ◎こぼまアゴラ劇場
いわさきゆうじ ●76年東京都生まれ。97年青年団入団。自身のユニットboku-makuhariで、ドロリとした人間の内面をコミカルかつ辛辣に描く。01年に「阿佐ヶ谷に零れる」、02年「僕は普通」と続けて名曲喫茶ヴィオロンで公演を行い、次作も期待大。役者として、はんなりとした不思議な存在感が持ち味。次回予定 ◆「東京ノート」(出演)